

令和３年度茨城県小中学校長研究協議会（神栖市・中学校部会）報告
テーマ：感染症対策を踏まえた働き方改革

【協議の概要（要旨）】

- ・部活動の改革について
- ・行事の縮小、削減について
- ・教職員の人員配置について

1 効果を上げた具体的取組

- （１）清掃を、週２・３日に削減（消毒作業はスクールサポーターに依頼）
- （２）通年で月曜日と木曜日を部活動のない日とし、17時を退勤時間に設定
冬期日課として、11月～３月の期間、月・木曜日を部活動のない日と設定
- （３）日課表を変更し、部活動開始時刻を早くして、終了時刻の繰り上げ
- （４）２学期通信票の所見なし（個別面談を実施）
- （５）退勤時間を職員室に掲示（全員に見えるようにしたことで、意識改革に繋がった。）
- （６）森作推進監のビデオを視聴し、全職員で協議（全員で協議することで、共通認識が図られた。）

2 令和４年度以降の取組

（１）新しい生活様式に基づく取組

- 感染症対策の観点から、今後もマスクの着用が必要となってくる。また、手洗いの徹底が必要である。
- 生徒が毎日検温することを継続する。検温を続けることで、自分自身の健康管理ができるようになってきている。
- 各種行事への保護者の参観人数や時間を限定する。また、参観する場合は、健康チェックシートを提出してもらう。

（２）通常の生活に戻った後、取り組むべき取組

- 体育祭を半日開催とする。半日開催にすることで、準備に費やす時間が短縮され職員の負担軽減に繋がる。また、平日開催も考えている。
保護者の参観は可としているが、家族以外の卒業生等については遠慮願っている。
- 文化祭の時間を短縮する。合唱のみとしたり、合唱を行わず総合的な学習の発表や掲示発表のみとしたりすることで、負担を減らす。
- PTA諸行事への参加を減らす。夜間の打ち合わせや土日の参加を減らすことで負担を軽減する。

3 今後の課題と対策

- 意識改革の観点から
 - ・一人一人が改革という意識を持つよう、継続的に指導する。
 - ・教育界全体の問題であることを意識するよう促していく。
- 外郭団体との連携の観点から
 - ・部活動で、各競技団体が主催する大会への出場を限定する。
- 行政との連携の観点から
 - ・留守番電話の設定を依頼する。
 - ・人材バンクを充実させ、部活動指導員を配置してもらう。部活動からクラブへの移行を土日だけでなく、平日もできるシステムを構築してもらう。
 - ・特に夏季休業中の作品募集を個人参加とし、学校でのとりまとめをしない。
 - ・公立高校への願書出願を個人での出願、または、WEB出願にする。
- 自校の行事精選、サービスの見直しの観点から
 - ・改めて行事の目的を明確にし、効果的な教育活動となる行事とする。
 - ・日課を見直し、時間を生み出し自己研鑽の機会を増やす。